

20代の旅行意識インタビュー

■AIパネル⑧

- 女性 / 28歳
- 職業/年次：看護師(6年)
- 居住エリア：江東区
- 居住形態：一人暮らし
- 奨学金：なし
- 2026年GWの計画：仕事(手当狙いで出勤)
- 2026年夏休みの計画：海外：タイ(リゾート)/予算：35万

<結果サマリー>

日常の重圧を海外リゾートの「完全な匿名性」と「圧倒的美」で上書きし、看護師としてまた現場に立つための、切実な深呼吸

1. 導入

根拠：都内の総合病院で働く6年目の看護師であり、夜勤(月4~5回、16時間拘束)を含むハードな勤務環境にある。休日は「泥のように眠る」か「一人で自分のペースを守る」ことに費やし、自炊の効率化などで日常の維持に努めている。

推論：常に他人の生命と感情に責任を負う立場にあり、精神的・肉体的な消耗が激しい。そのため、プライベートな時間においては「他者からの要求」や「管理されたスケジュール」から完全に切り離されることを無意識に切望している。

FD：日々の生活は「耐える・こなす」側面が強く、自身の健全性を保つための「聖域(誰にも侵されない時間)」の確保が、生活全体のバランスを維持するための最優先事項となっている。

2. 2026年のGW・夏休みの旅行計画と背景意識

根拠：GWは「休日手当」目的であえて全出勤し、その稼ぎを夏のプーケット旅行(35万円)に一極集中させる。円安や物価高を考慮し、ハワイ等の高騰エリアを避け、自分の経済力で「王様になれる」タイのプライベートヴィラを選択した。

推論：経済的な制約(円安等)を「我慢」ではなく「資源の最適配分」として捉えている。中途半端な国内旅行を排し、一回の爆発的な非日常に投資することで、コストパフォーマンスならぬ「メンタルパフォーマンス」の最大化を図っている。

FD：旅行を単なる娯楽ではなく、過酷な労働を継続するための「必要経費(投資)」と位置づけている。そのため、物価高に対しては「質を落とす」のではなく「回数を絞って質を維持・向上させる」という戦略的適応を見せている。

3. 旅行に対する意識・旅行の意味づけ

根拠：旅行とは「酸素」であり、明日も普通の顔で現場に立つための「メンテナンス」であると定義。国内ではなく海外にこだわる理由は、言葉が通じない「完全な匿名性」の中に身を置き、看護師という役割から100%解放されるためである。

推論：対象者にとっての「圧倒的に綺麗な場所」や「海外」は、視覚・聴覚・嗅覚の全てをポジティブな情報で書き替えるための必須条件である。経済的制約が強まっても、この「自己解放の儀式」を失うことは自己の崩壊に直結するという強い危機感を持っている。

FD：奨学金がないという身軽さを背景に、将来への貯蓄よりも「今の自分を折らせないための投資」を優先している。制約社会において、彼女のような層は、消費の選別を極限まで進めつつも、コアとなる価値観（自己解放）には一切の妥協をしない。

4. 旅行費用の構造と捻出の工夫（全体総括）

根拠：仕事での「16時間拘束・他者貢献」という極限状態に対し、旅行での「一人のヴィラ・100%自己充足」という対極の極限状態をぶつけることで、精神の均衡を保っている。

推論：2026年という閉塞感のある社会情勢下で、彼女は「逃避」ではなく「戦略的撤退と回復」を選択している。自身の旅の価値観を「酸素」と表現するように、旅行は生活の彩りではなく生存戦略そのものである。

FD：経済的制約や社会不安が増大する中で、この層の消費行動は「なんとなく」が消滅し、「何が自分を救うのか」という極めて個人的かつ切実な動機に根ざしたものへと純化していく。ブランド側には、表面的な贅沢の提示ではなく、対象者が背負っている「日常の重荷」を完全に降ろさせるための「徹底した没入感と匿名性の提供」が求められる。

1. 導入

【インタビュアー】 本日はお忙しい中、お時間をいただきありがとうございます。今日は、日頃の生活のことや、お休みの過ごし方についてざっくばらんに伺いできればと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

まずはご自身のことについて、少し詳しく教えていただけますか？ 今どのようなお仕事をされていて、普段はどのような環境で生活されているのか、お聞かせください。

【対象者】 あ、よろしくお願いします。仕事は、都内の総合病院で看護師をしています。もう6年目になるので、現場では中堅というか、夜勤も普通に入りますし、結構バタバタした毎日を送っていますね。

住んでいるのは江東区で、一人暮らしです。職場からはそこまで遠くないんですけど、休みの日はしっかり仕事から離れたいなってという感じで過ごしています。

【インタビュアー】 6年目の看護師さんとして、お忙しく過ごされているんですね。「休みの日はしっかり仕事から離れたいな」とのことですが、普段の休日は具体的にどのように過ごされていることが多いですか？

【対象者】 そうですね……。基本、休みが不規則なので、平日に休みになることも多いんです。そういう時は、午前中はとにかく泥のように眠って（笑）、午後から重い腰を上げて掃除をしたり、近所のカフェに行ったり。

最近、自炊にちょっと凝っていて。と言っても、凝った料理を作るわけじゃなくて、「いかに効率よく、でも栄養があるものを一気に作るか」みたいな、作り置きルーチン化にハマってます。仕事がある日は本当に疲れ果てて帰ってくるので、レンジでチンするだけでちゃんとしたものが食べられると、あ、生きてるなって思えるというか。

【インタビュアー】 「あ、生きてるな」という実感、大切ですね。お仕事ハードな分、休日の過ごし方はご自身にとってどのような意味を持っていますか？

【対象者】 うーん……。 「リセット」ですかね。病院にいと、ずっと誰かのために動いて、常に気を張ってなきゃいけないじゃないですか。ミスも許されないし。だから休みの日は、誰にも何も言わず、自分のペースだけで時間が過ぎていくっていうのが一番の贅沢というか。スマホも見なくて、ぼーっとしているだけの時間も結構あります。

【インタビュアー】 ありがとうございます。ご自身のペースを保つことが、大切なリセットの時間になっているんですね。

ちなみに夜勤の頻度についても伺いたいのですが、月にどのくらい入られているんですか？

【対象者】 だいたい月に4回から5回くらいですかね。二交代制なので、1回の夜勤で16時間くらい拘束される感じです。夜勤明けの日はもう、フラフラで帰ってきてそのまま夕方まで寝ちゃう……。みたいな。

【インタビュアー】 16時間拘束が月に4~5回となると、体力的な負荷も相当なものですね。そうとなると、生活のリズムを維持するだけでも工夫が必要そうですが、そのあたりはどうされていますか？

【対象者】 うーん、工夫というか、もう「無理をしないこと」に決めてます。夜勤明けに無理に予定を入れると、次の勤務まで引きずっちゃうので。

あと、夜勤って手当が出るじゃないですか。正直、体力的にきついなって思う時もあるんですけど、明

細を見て「あ、今月はこれだけ頑張ったから、ちょっと高い入浴剤買おう」とか、そういう小さなご褒美がないとやってられないっていうのはありますね（笑）。

【インタビュアー】なるほど。手当という目に見える対価と、自分への小さなご褒美が、ハードな勤務を支える一つの要素になっているのですね。

2. 2026年のGW・夏休みの旅行計画と背景意識

【インタビュアー】 それでは、今年のお休みの過ごし方について詳しく伺っていきます。まず、間もなくやってくるゴールデンウィークですが、何かお出かけや旅行などの計画は立てられていますか？

【対象者】 GWは……予定、というか、仕事ですね。全部出勤することにしました。連休中ってどこも高いし混んでるじゃないですか。看護師の仕事をしていると、祝日とか連休に出ると「休日手当」がしっかりつくので、そこを狙ってあえてシフトを入れてもらったんです。

【インタビュアー】 あえて連休に「手当狙い」で出勤されるのですね。周囲の方がお休みの中で、ご自身が連休中に働くことに対しては、どのようなお気持ちですか？

【対象者】 うーん、昔は「いいなー」って思っていましたけど、今はもう割り切ってますね。どこに行っても人混みで疲れるだけだし、その時期に高いお金を払って旅行するくらいなら、みんなが働いている時期に安く、贅沢に休みたいというのが本音です。GWにしっかり稼いでおけば、その分、夏休みにドカンと使えるので。

【インタビュアー】 「夏休みにドカンと使う」とのことですが、夏の休暇については何か具体的な計画を立てられているのでしょうか？

【対象者】 はい。8月の終わりに休みを1週間弱取って、タイに行こうと思っています。プーケットのリゾートの方です。GWに稼ぐ手当は、全部その軍資金にするつもりです。

【インタビュアー】 夏休みのタイ旅行のために、今はしっかり稼ぐ時期と決めていらっしゃるのですね。そのタイ旅行について、現時点で考えている具体的な内容（期間、移動手段、宿泊先、現地でやりたいことなど）を教えてくださいませんか？

【対象者】 期間は5泊6日の予定です。移動は……本当はLCCとかの方が安いんですけど、今回は奮発してフルサービスキャリアの直行便にしようと思っています。夜勤明けとかで行く可能性もあるので、移動で体力を削られたくないんですよね。

宿は、プライベートプールがついているヴィラを予約しました。とにかく「誰にも邪魔されない空間」が欲しくて。現地では特に観光地を巡る予定はなくて、朝起きて、プールに入って、マッサージを呼んで、美味しいタイ料理を食べる。それだけの「何もしない時間」を過ごしたいなと思っています。

【インタビュアー】 「何もしない時間」を過ごすための5泊6日なのですね。移動手段や宿を選ぶ際に、費用面も含めて「ここだけは譲れない」と一番重視したポイントは何でしたか？

【対象者】 「プライベート感」と「ストレスのなさ」です。普段、仕事でずっと大勢の人に囲まれて、ナースコールに追われて……って生活をしているので、旅行先でまで他人の気配を感じたくないんです。だから、多少高くても、日本人がたくさんいるような大型ホテルじゃなくて、独立したヴィラであることは絶対に譲れませんでした。

【インタビュアー】 「他人の気配を感じたくない」という切実な思いがあるのですね。そのプーケッ

ト旅行にかかる費用については、全体でどのくらいを見込んでいますか？また、その金額は普段の生活費と比較して、ご自身の中でどう位置づけていますか？

【対象者】 だいたい、全部込みで 35 万円くらいかなと思っています。 普段の生活費からすると、めちゃくちゃ大きな出費です。でも、私、幸いなことに奨学金の返済がないので……その分、月々の固定費は抑えられている方だと思います。

普段は自炊を徹底して食費を浮かせたり、無駄な買い物はしないように気をつけているんですけど、それは「ケチケチ生活」というよりは、「この 35 万円を気持ちよく払うための調整」という感覚なんです。日常の節約は、この非日常を買うための「積立」みたいなものですね。

【インタビュアー】 日常の節約は、非日常を最高のものにするための「積立」という感覚なのですね。今回の計画を立てる中で、本当はやりたかったけれど、費用やスケジュールの都合で「今回は諦めた・我慢した」という部分は何かありますか？

【対象者】 あー……本当はビジネスクラスで行きたかったです（笑）。 16 時間拘束の夜勤とかをこなしていると、本当に「体が資本だな」って痛感するので、移動の数時間もフルフラットで寝られたら最高だなんて。でも、今の燃油サーチャージとか円安を考えると、さすがにそこまで出すと現地での贅沢が削られちゃう。そこは現実を見て、エコノミーの座席指定で妥協しました。

あとは買い物ですね。昔なら免税店でバッグとか見てたかもしれないですけど、今は「モノ」を買うより、その場所でしかできない「体験」にお金を使いたいので、ショッピングは最初から予算に入れていません。

【インタビュアー】 「モノ」より「体験」にシフトされたのですね。今年の GW と夏休みの過ごし方を伺っていると、非常にメリハリを意識されているように感じますが、そもそもこの「連休は働いて、夏に一気に使う」というバランスの取り方は、どのようにして決まったのですか？

【対象者】 自然とそうになりましたね。 20 代後半になって、体力も昔ほど無限じゃないし、何より仕事の責任が重くなってきて。ちょこちょこ近場に旅行して「あー楽しかった、明日からまた仕事か……」って現実にすぐ戻されるのが、最近すごく虚しくなっちゃったんです。

だったら、回数を減らしてでも、一度「完全に自分を消せる場所」に身を置く方が、その後の半年とか 1 年の仕事のモチベーションが続く。今の私にとって旅行は「ご褒美」というより、明日も看護師として働くための「必要経費」に近いのかもしれない。

【インタビュアー】 「自分を消せる場所」への旅が、仕事を続けるための「必要経費」になっているのですね。 ちなみに、昨年（2025 年）と比べて、旅行に対する考え方や選び方で「意識的に変えたこと」や「変えざるを得なかったこと」はありますか？

【対象者】 円安と物価高の影響は、やっぱり無視できないです。去年と同じ予算だと、ランクが一つ落ちちゃうのが現実じゃないですか。 だからこそ、「中途半端な贅沢」をやめました。去年までは「一応、年に 3 回くらいはどこか行きたいな」と思って分散させてましたけど、今年は「夏の一回に全力を注ぐ」って決めてます。

あと、行き先もアメリカとかヨーロッパは、今のレートだと「食事代でいくら飛ぶんだろう」ってビクビクしちゃいそうで。タイなら、まだ自分の稼ぎで「王様気分」を味わえる余地がある。自分の心の余裕を保てる場所を、よりシビアに選ぶようになったとは思いますが。

【インタビュアー】 「心の余裕を保てる場所をシビアに選ぶ」という変化があったのですね。

行き先の選び方についても伺いたかったのですが、今回数あるリゾートの中で、なぜ「タイ」にしよう
と決められたのですか？ あと、今回はお一人で行かれるのでしょうか、それともどなたかと一緒に
ですか？

【対象者】 今回は、一人です。誰かと予定を合わせるのも、現地で相手のペースに合わせるのも、今の
自分にはちょっと重いというか。完全に自分のためだけの時間にしたいので。

タイにした理由は、やっぱり「コスパ良く、振り切った贅沢ができるから」ですね。最初はハワイと
かも考えたんですけど、あっちって今、ラーメン一杯で数千円とかするじゃないですか。せっかく高
いお金を払って行くのに、現地で「これにこの金額払うのか……」って財布を気にしてチマチマした
気持ちになりたくなかったんです。

タイなら、同じ予算でもホテルのランクをガツンと上げられるし、スパも毎日行ける。円安の影響はど
こにでもあるけど、タイならまだ私の給料でも「王様になれるって。今の私にとって、旅行は「我
慢しに行くもの」じゃなくて「解放されるためのもの」なので、一番無理なく贅沢ができる場所を選
びました。

【インタビュアー】 「ハワイでのチマチマした気持ち」を避け、ご自身の給料で「王様になれる場所」
を選ばれたのですね。お一人での「完全な解放」を求めてのタイということですが、現地での過ごし
方について、もう少し具体的にイメージされていることはありますか？

【対象者】 うーん、本当に「何もしない」を極めたいです（笑）。例えば、朝はアラームをかけずに
起きて、気が向いたらホテルのテラスでゆっくり朝食を食べて、そのあとはプールサイドで本を読ん
だり。

あ、でも一つだけ決めているのは、最終日の前日に、そのホテルで一番高いスパのコースを予約するこ
とです。普段の看護師の仕事って、ずっと立ち仕事で体もバキバキなので。最後に全身をリセットし
て、「よし、また明日から日本で稼ごう」って思えるような、自分への儀式みたいな感じですね。

【インタビュアー】 「自分への儀式」としてのスパ、素敵ですね。ちなみに、お一人での海外旅行に
対して、治安面や言葉の面などで不安を感じることはありませんか？

【対象者】 正直、英語がペラペラなわけじゃないので不安がないわけじゃないですけど、今はスマホが
あれば翻訳も地図もなんとかなりますし。あと、中途半端な格安ホテルじゃなくて、ちゃんとしたセ
キュリティのしっかりしたヴィラを選んだのも、一人旅の不安をお金で解決した、みたいところは
あります。安全と快適さは、ケチっちゃいけないポイントだと思っているので。

【インタビュアー】 「安全と快適さをお金で解決する」というのも、一人旅を成立させるための重要な
戦略なのですね。

現地では基本的にそのホテル一箇所で、完全に「こもる」のでしょうか？ 例えば、街の方へ買い物に
行ったり、現地のオプションツアーに参加したりといった、ホテルの外に出るアクティビティは、
今のところ本当に「ゼロ」の予定なんですか？

【対象者】 あー……そうですね。基本はゼロで考えてます。あ、でも、もしかしたらヴィラのすぐ近
くにある現地のスーパーに、飲み物とかフルーツを買いにちょっと出るくらいはあるかもしれないで
すけど。それも「観光」っていうよりは「食料の調達」って感じです（笑）。

わざわざ車をチャーターして島を巡ったり、有名な寺院に行ったりっていうのは、今回は全く考えてな
いんです。多分、そういうことをしちゃうと、「何時までに戻らなきゃ」とか「明日の予定は」って、結

局頭が仕事モードに近い「スケジュール管理」を始めちゃう気がして。

【インタビュアー】 「スケジュール管理」を始めてしまうことが、仕事モードに繋がってしまうのですね。せっかくの海外で、ガイドブックに載っているような場所を「見ない、行かない」という選択をすることに、もったいないなという感覚は全くないのでしょうか？

【対象者】 昔はありましたよ。「元を取らなきゃ」みたいな（笑）。でも今は、その「何もしない贅沢」に35万円を払っているっていう感覚なんです。観光地に行って写真を撮る労力よりも、ヴィラのテラスで誰にも邪魔されずに、ただ海が青いなあって眺めている時間の方が、今の私には圧倒的に価値がある。

看護師として、毎日分刻みで動いて、常に誰かの要望に応じているからこそ、どこにも行かなくていい、誰にも会わなくていいっていう状態こそが、一番の「元を取っている」状態なんだと思います。

【インタビュアー】 「何もしないこと」こそが、最大のリフレッシュであり、投資の回収になっているのですね。

3. 旅行に対する意識・旅行の意味づけ

【インタビュアー】 視点を少し先に向けたいのですが、今回のプラン以外で、今後やってみたいと思っている旅行の形や、具体的に気になっている場所はありますか？

【対象者】 うーん……すぐには思いつかないですけど、いつか、スイスとか北欧の方に行ってみたいなっていうのはありますね。プーケットとはまた違う、静かで、空気が凛としているような場所。

でも、今はまだ「いつか」でいいかなって思ってます。今の私には、熱帯の気だるい空気の中で完全にオフになる方が、回復には必要なので。

【インタビュアー】 スイスや北欧のような、静寂を感じる場所にも興味があるのですね。ちなみに、最近はある時間をかけて移動する「青春18きっぷ」のような鉄道旅も注目されていますが、こうした「移動そのものを楽しむ、あるいは時間をかける旅行」については、どのように感じられますか？

【対象者】 あ、それは……今の私には一番無理なやつです（笑）。学生の頃なら、友達と何時間も電車で揺られて、どこに着くかわからないワクワク感を楽しめたと思うんですけど。今は、移動に時間をかけるのは「コスト」でしかないというか。16時間夜勤を繰り返していると、どうしても「いかに効率よく、最短で、楽に目的地に着くか」を考えちゃいます。

各駅停車を乗り継いで……っていうのは、今の私にとってはリフレッシュじゃなくて、新しい「タスク」みたいに感じてしまう気がしますね。

【インタビュアー】 移動が「コスト」や「タスク」に感じてしまうのですね。では、移動の手間や費用が一切かからない「デジタル旅行」についてはどう思いますか？YouTubeで4Kの絶景動画を眺めたり、VRで現地にいるような疑似体験をしたりすることに、旅行としての魅力を感じますか？

【対象者】 動画を見るのは好きですよ。寝る前とかに、海外の綺麗な海の映像を流しっぱなしにしたりはします。でも、それはあくまで「癒やし動画」であって、旅行ではないかな。

やっぱり、現地に行かないと分からないことってあるじゃないですか。空港に降りた瞬間の、日本とは違う空気の匂いとか、ホテルのシーツの肌触りとか。そういう五感で感じるものがセットじゃないと、私の脳は「あ、今自分は日常から切り離されたんだ」って納得してくれない気がするんです。

【インタビュアー】 五感での「切り替え」が、旅行の定義に深く関わっているのですね。 それでは、この「デジタル」や「安価な移動」とは対極にある、あなたにとっての「旅行」とは、改めて一言で表すとどのようなものと言えますか？

【対象者】 うーん……一言で言うなら「酸素」みたいなものかもしれません。 ずっと病院という閉鎖された空間で、他人の命や重い感情に振り回されていると、どんどん息苦しくなってくるんです。旅行という「外気」を定期的に取り込まないと、この先何年もこの仕事を続けていくのは、たぶん無理だなんて思います。 贅沢品というよりは、明日もまた看護師として「普通」の顔をして現場に立つための、必要不可欠なメンテナンスですね。

【インタビュアー】 「明日も普通の顔をして現場に立つためのメンテナンス」……切実な響きがあります。 では、視点をこれからの未来に向けて伺わせてください。 今後、さらに物価が上がったり、社会保険料の負担が増えたりといった、経済的な制約が強まっていくことが予想されます。 そうした中で、あなたの「旅行」はどう変化していくと思いますか？

【対象者】 現実的には、もっと「選別」がシビアになると思います。 今まで以上に、「なんとなく」で行く旅行はゼロにするでしょうね。 友達に誘われたから行く、みたいな付き合いの旅行も、自分の本当に欲しいリフレッシュに繋がらないなら断るようになるかもしれません。 要望としては、いつまでも今回みたいなヴィラに泊まりたいですけど、もし本当に厳しくなったら、期間を短くしてでも「質」だけは維持する方向にいくと思います。「1週間のビジネスホテル」より「2泊の最高級ヴィラ」を選ぶ、みたいな。

【インタビュアー】 期間を削ってでも「質」は譲らない。 その「選別がシビアになる未来」をご自身ではどう捉えていますか？ 「世知辛いな」と諦めに近いのか、あるいは「何としてでも守り抜く」という感覚なのか。

【対象者】 「死守する」に近いですね。 だって、そこまで削ってしまったら、何のためにこんなにハードな仕事をしているのか分からなくなっちゃうじゃないですか。 私は、将来のために今を全部犠牲にするタイプではないので。 幸い、奨学金もなくて身軽な分、自分の裁量でどうにかなる部分はまだあると思っています。 制約が増えるなら、その分もっと効率的に稼ぐか、もっと賢くお金を配分するだけ。 どんなに世の中が厳しくなっても、「自分を完全に解放できる時間」だけは、絶対に手放したくないです。

【インタビュアー】 「自分を完全に解放できる時間」は絶対に手放さない。 その制約だらけの未来の中でも、これだけは「絶対に譲れない」「これだけはやりたい」と心に決めている具体的な要素を、最後にもう一度教えていただけますか？

【対象者】 「一人で、誰にも邪魔されない、圧倒的に綺麗な場所に身を置くこと」です。 これだけは、どんなに円安が進んでも、タイがダメなら別の場所を探しても、絶対に続けたいです。 それがなくなったら、私の看護師としての生活は、たぶんポッキリ折れちゃうと思うので（笑）。

【インタビュアー】 「ポッキリ折れないため」の、大切な生命線なのですね。

先ほど、「圧倒的に綺麗な場所に身を置くこと」が絶対に譲れないとおっしゃいましたが、それはなぜなのでしょう。 ご自身の中で、その「綺麗さ」はどうしてそこまで必要なんですか？

また、「一人で誰にも邪魔されない、圧倒的に綺麗な場所」という条件であれば、例えば都内のラグジュアリーホテルや、沖縄の離島といった国内でも成立しそうに思えます。 それでも、あえて「海外旅

行」を前提に考えていらっしゃるの、何か理由があるのでしょうか。

【対象者】 あー……「綺麗さ」が必要なのは、視界から入る情報を100%ポジティブなものだけで埋め尽くしたいから、だと思います。仕事柄、どうしても病院っていう「清潔だけど、どこか無機質で、苦しみや痛みの気配がある場所」にずっといるので。壁の汚れ一つない、ただただ美しいデザインや景色の中に身を置かないと、心の汚れが落ちない感覚があるんですよね。

国内じゃダメな理由……うーん、それは「物理的な距離」と「言葉」の問題が大きいです。都内のホテルだと、窓の外に見える景色がどうしても「日常の延長」なんです。あそこら辺にあのビルがあって……とか、あっちの方に職場があるな、とか、どうしても考えちゃう。沖縄もいいんですけど、やっぱり日本語が聞こえてきちゃうと、ふとした瞬間に「あ、明日からのシフトどうなってたっけ」とか、現実の責任感がスッと戻ってきちゃうんです。

【インタビュアー】 景色や言葉から「現実の責任感」が戻ってきてしまうのが嫌なのですね。

【対象者】 そうなんです。海外、特にタイのリゾートまで行くと、まず看板の文字も読めないし、周りの会話もBGMとして聞き流せる。自分を誰も知らない、自分も周りを何も知らないっていう「完全な匿名性」が手に入るんですよね。

国内だと、どんなに贅沢しても「看護師の私」というラベルが剥がれきれない感じがして。飛行機に乗って海を越えるっていうステップを踏むことで、ようやく「ただの人間」に戻れる。そのための「海外」なんだと思います。

【インタビュアー】 「ただの人間」に戻るための、国境を越える儀式のようなものなのですね。そこまでして手に入れたい「解放」があるからこそ、多少の円安や物価高があっても、タイのような場所での贅沢を死守したい、というお考えに繋がっているのでしょうか。

【対象者】 まさにそうです。もしそれを国内の近場でお茶を濁すくらいなら、いっそどこにも行かずに家で寝ていた方がマシ、とさえ思っちゃいます。私にとって、中途半端な妥協はリフレッシュにならないんです。「やるなら徹底的に、日常が1ミリも入り込まない場所へ行く」。それが、この仕事を長く続けていくための、私なりの防衛本能なんだと思います。

【インタビュアー】 本日は、お仕事の大変なお話から旅行に対する切実な思いまで、たくさんお聞かせいただき本当にありがとうございました。貴重なお話ばかりでした。

それでは、インタビューは以上となります。お疲れ様でした。

【対象者】 ありがとうございました。失礼します。